2025（令和7）年6月22日版・最終版
平和憲法の会・くまもと戦跡ネット　髙谷和生

2025（令和7）年 第17回 熊本空襲を語り継ぐ集い
証言会実施計画及び当日シナリオ案

1　日　時　　令和7年（2025年）7月1日（火）
午後13時開場、13時半から16時半頃まで

2　場　所　　熊本市中央公民館6階　大会議室3（定員76人）
熊本市中央区草葉町5番―1号　電話096-353-0152
□証言者「津下　環様」は、８９歳とご高齢につき体調不良の場合は、事前収録の映像とします。自宅：096-352-3867　熊本市西区花園７丁目７４-２０
□7/1当日は、小山清丘さん（山栄ストアー・090-1517-4917）に、往路送迎依頼済み。復路は事務局員で対応。

3　証言会の進行等　　進行（　高山　）
①開会　　・・・・13時30分（　高山　）

②戦災被災者への黙祷

③主催者挨拶　　（　代表幹事　坂本　正　）

④講話「柿原空襲　～昭和19年11月21日の“熊本初空襲”は何だったのか～」
・・・・13時40分（　髙谷　）

⑤津下　環様の証言「恐ろしかった柿原空襲」　　・・・・14時10分～40分
※髙谷は前席で、津下様と対面してのトーク形式。正面にはスクリーン等

⑥休息　　・・・・14時40分～15時00分

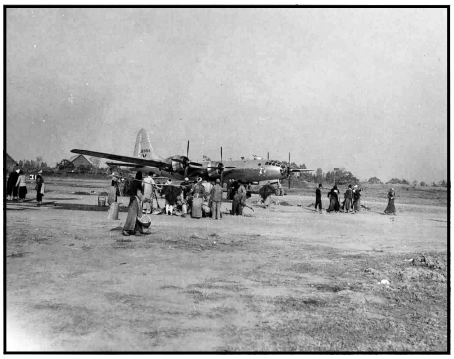
⑦提案・説明・ワークショップ
「熊本空襲　記憶の継承プロジェクト　Ⅱ」
・・・・15時00分～15時40分　（　髙谷・高山・吉田　）

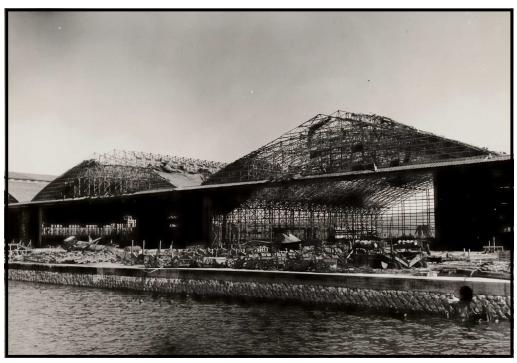
⑧閉会　　・・・・15時40分頃　（　高山　）

⑨移転された「熊本空襲慰霊碑」見学　・・・・16時00分頃・約30分間（ 吉田 ）

4　講話「柿原空襲　～昭和19年11月21日の“熊本初空襲”は何だったのか～」
(1) 日本と九州への空襲　中国大陸からの日本本土へのB29初空襲、マリアナから

(2) 臨機目標としての熊本





左：中国大陸の延安・西安基地での飛行場様子と戦略爆撃機Ｂ２９
右：被害を受けた長崎県大村の第二一海軍航空廠水上機格納庫

(3) 二度にわたる「熊本大空襲」と熊本の小さな街「松橋」等への空襲

(4) 柿原空襲でのおごりが、熊本空襲の被害を拡大させた!

5　津下　環さん（90歳）証言会「恐ろしかった柿原空襲」

(1) 当時のご自宅、ご家族（9人家族）・生活のご様子

当時の「花園国民学校」での学校様子は‥

(2) 昭和19年11月21日「柿原空襲」の事
空襲は何時頃で、警戒・空襲警報はなりましたか?

その日の天気は、覚えておられますか?

B29は見えましたか?

爆弾・焼夷弾は何発、何処に落ちたのですか、
ご自宅の被害は

お隣の「寺元よつめさん」の様子は

どの様にして助けられたのですか?　玄関前の俵は?

亡くなられた「やえ」おばさん、いとこの「えつおさん」の思い出を教えていただけますか

「寺元さん宅に落ちた不発弾」はどうなったのですか?
「だござまし山」での陸軍の処理は‥

樟脳工場前の広場で処理された「不発弾(焼夷弾)」展示され、見物人が‥

花園小学校学習発表会での津下環さん（右側）と小山さん（左側）

(3) 救出後の様子は‥‥、ご自宅の再建はどの様に‥

(4) 第一回熊本大空襲（7／1)、第二回熊本大空襲（8／10）の様子は

(5) 敗戦時（8月15日）の様子は

戦後のご様子、生活をお教えいただけないでしょうか。
今はどの様にお暮らしですか?

(6)「空襲」の爆弾、機銃弾、写真週報を見て、どう思われますか

太平洋戦争開戦から、80年目となります。
いま現在も、ウクライナ戦争での戦闘が、
行われています。

当時の事と重ね、どの様に思われますか?
その思いをお話しいただけますでしょうか。

(7)「熊本空襲を語り継ぐ集い」で、
若い世代に、花園小の子ども達に
伝えたいことは‥‥

表 -1　1944 年 11 月 21 日の大村空襲の概要

目標	第 1 目標　大村 第 2 目標　上海 最終目標　南京
部隊	第 58 航空団の 第 40・第 444・第 462・第 468 群団
B-29 の機数	成都を離陸した機数　109 機 目標に投弾した機数　94 機 うち 大村 61 機・上海 13 機・南京 5 機 臨機目標 15 機
爆弾・焼夷弾の搭載	爆弾 (500ポンド) M43・M64　936 発 焼夷弾 (500ポンド) M76　480 発
爆弾・焼夷弾の投下	大村　爆弾 524 発　焼夷弾 286 発 計 202.5トン 上海　爆弾 127 発　焼夷弾 36 発 計 40.75トン 南京　爆弾 28 発　焼夷弾 37 発 計 16.25トン 臨機目標 爆弾 124 発　焼夷弾 63 発
攻撃時間 (日本時間)	大村　9 時 47 分～ 10 時 36 分 上海　8 時 29 分～ 13 時 13 分 南京　7 時 42 分～ 10 時 50 分 臨機目標　8 時 58 分～ 11 時 04 分
投下高度	17,200 ～ 27,500 フィート

6　提案・説明・ワークショップ

「熊本空襲　記憶の継承プロジェクト　Ⅱ」

(1)「熊本空襲記憶の継承プロジェクトの取り組み」

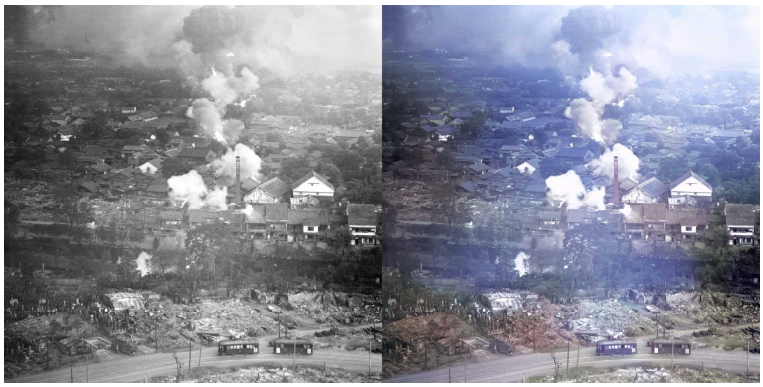
完成した、「昨年（令和6年度）の4枚」紹介　　※別途　紹介

Ａ写真　白川左岸世安町の日華護謨（ごむ）分工場へのナパーム弾投下

Ｂ写真　市街地の白川流域である本荘町等への空襲

Ｃ写真　花畑町・桜町への空襲

Ｄ写真　川尻町から富合を抜け宇土方面への国道３号自動車橋への攻撃写真



２０２４年の白黒写真とＡ１等カラー化での作業対比写真

(2) 今年度（令和7年度）の取り組み

２０２５年取り組み予定の５枚

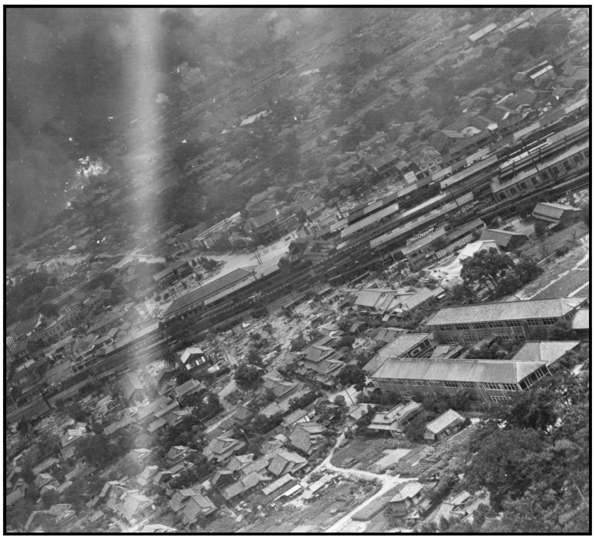
Ｅ：島崎町の旧熊本市立商工学校

Ｆ：本山町の岡村鉄工所とＭ７６焼夷弾

Ｇ：北岡神社と旧国鉄

Ｈ：旧国鉄と春日国民学校

Ｉ：萩原町の西部瓦斯製造所



(3)「ワークショップ」の進行等　　※座席で「4班」に事務局で編制

ア　プロジェクト概要、４項目の説明、令和６年取り組み「４枚」完成紹介

イ　空襲写真のカラー化事業　「記憶の解凍！」

□ＡＩ自動認識による「カラー色づけ・Ｅ：島﨑町の旧熊本市立商工学校」
□くまもと戦跡ネット連携による空襲写真の「歴史検証」
□新たな熊本の「空襲ストーリー」作成

（ア）米軍空撮Ａ～Ｄ資料の各概要・ストーリー紹介
（イ）４グループに分かれる「Ｅ～Ｉ資料（白黒紙焼き)」への色鉛筆等での「記憶の色づけ！」
（ウ）色付けに関わる思いで、感じたことを「ポストイット」に記入し、該当写真に貼り付け
（エ）各班等から、色づけでの「解凍された記憶」　願いや想いを「紹介！」

ウ　解凍された記憶と証言、戦争遺産を重ねた「ストーリーの継承」へ

(4)参考資料　「柿原空襲と津下環さん」に関わる昨年度の報道

朝日新聞　2024年（令和6年）12月12日（木）

埋もれた空襲証言 小学生が再発見

戦後80年へ

課題「戦時中の歴史」→ネットに「柿原に空襲」→商店主が仲介

熊本市が初めて空襲に見舞われたのは、現在の西区花園7丁目にあたる柿原地区だった。文献に残る、そんな史実の体験者を地元の小学6年生が「発見」した。

総務省の「熊本市における戦災の状況」にこんな記述がある。

「熊本市が初めて爆撃を受けたのは、昭和19（1944）年11月21日のことである。花園町柿原に500キロ爆弾10数発を投下した」

花園小学校の6年生の担任、宮丸賢一(48)と後藤健太朗(28)の両教諭は今年度、「家族の歴史を調べよう」という課題を出した。うまく調べられない子もいて、テーマを「校区の戦時中の歴史」に替えてもよいことにした。すると、ネットで調べて「柿原で空襲があったみたいです」と報告してきた子がいた。

宮丸教諭は市立図書館で文献を調べ、ネット情報がおおよそ正しいことを確認した。しかし、詳細はよく分からない。そこで子どもたちに「被害にあった人が分かるかも知れない。調べてみて」と呼びかけた。

林田彩生さんは、地元の食料品店「山栄ストアー」の店主小山清孝さん(73)に相談した。

津下環さんを囲んで空襲の体験を聞く６年生＝７月16日、熊本市西区花園７丁目、花園小学校提供

小山さんは生まれも育ちも柿原で、地域のことに詳しい。「空襲を知っている人に会いたい」という頼みに、「それなら津下さんだな。連れて行くよ」と即答した。

林田さんは友達の秋山凜さん、葛城桃香さんと3人で6月下旬、津下環さん(89)を訪ねた。

89年以来の質問

津下さんにとって意外な訪問者だった。空襲のことを質問されるのは、柿原公民館30周年記念誌（1989年）をまとめる際にインタビューされて以来だったからだ。

ヒューという音とともに焼夷弾が家の入り口付近に落ちてきたこと。柱がろうそくのように燃え上がったこと。外に逃げられず、積んであった米俵の隙間に潜り込んだこと。祖母が崩れてきた鴨居で頭を強く打って亡くなり、いとこの5歳児が祖母に強く抱きしめられたまま窒息死したこと……。

そんな記憶を、ひ孫のような3人に語って聞かせた。

先生たちは話を聞いて、他の子たちにも聞かせたいと思った。3人に連れられて、まずは先生だけで、その後は6年生全員で訪ねた。

空襲の体験者を「発見」した（左から）秋山凜さん、林田彩生さん、葛城桃香さん＝花園小学校

6年生は修学旅行で長崎に行き、原爆投下のことも学んだ。その後、「なぜ、津下さんの家に爆弾は落とされたのだろう」という疑問が出た。

いま柿原公園がある場所は当時、陸軍の射撃場だった。それが標的だったのだろうか。

宮丸教諭は「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生代表(70)に授業を依頼した。

迷った爆撃機か

11月28日、高谷さんは花園小で6年生全員を相手に話した。使用済みの焼夷弾や銃弾も持参した。柿原に飛来した爆撃機は本来、軍事施設が集中していた長崎県大村市を目指していたことや、迷子になって柿原にやって来た可能性があることを説明した。

高谷さんは、子どもたちが自力で津下さんを見つけたことに感心した。過去の記録を調べても、津下さんの証言は見当たらなかったからだ。

12月4日、花園小では学習発表会があり、6年生は調べたことを劇にして保護者に披露した。津下さんと小山さんも招かれた。津下さんは「話をしっかり聞いてくれていた」とうれしくなった。

高谷さんから「詳しく話を聞かせて欲しい」と申し込まれ快諾した。

「誰にでん、知ってるしこ（知っているかぎり）話しますよ」

年が明けると戦後80年。子どもたちのがんばりで、生き証人の言葉は広く知られることになりそうだ。（森北喜久馬）

令和7年(2025年)1月12日 日曜日　熊本日日新聞

県内初空襲「恐ろしかった」

家族失った津下環さん(89)＝熊本市西区

重い口開き、小学生に語る

くまもと 戦後80年

太平洋戦争末期、熊本県内は米軍の激しい空襲を受けた。熊本市西区花園の柿原地区は、県内で最初に空襲があった場所とされる。地元で生まれ育った津下環(たまき)さん(89)は家族を失い、自身も命の危険にさらされた。これまで体験を語らずに過ごしてきたが、戦後80年が迫る中で重い口を開いた。小学生から証言を求められたからだ。つらい記憶を後世につないでほしいと願う。

柿原地区の空襲で爆弾が落とされた自宅周辺の場所を示す津下環さん＝2024年12月、熊本市西区

「爆弾が何発も玄関の前や畑の近く、小屋に落ちました」。今も同じ場所に立つ自宅のそばで、空襲があった1944年11月21日の記憶をたどった。

当時9歳。雨が降ったりやんだりする日の午前中だった。家の中で遊んでいると、「ヒュー」という音が突然、鳴り響いた。外へ出て音の正体を確かめようとした瞬間、家が崩れた。土間にあった米俵を載せた台の下に急いで潜り込んだ。

目に入ったのは、家の隣にあった小屋の柱がろうそくのように燃えている光景。火の手が回ったら自分も焼けてしまうと恐ろしくなった。身動きができず、何度も「助けて」と声を絞り出した。

命があったのは、米俵の下にいたから。食糧難の時代で、米俵を運び出そうとした地域住民が偶然見つけて救い出してくれた。

同居していた身内7人のうち、52歳の祖母と、いとこの5歳男児は命を落とした。祖母はいとこを守るように抱いていたと聞いた。

「母親代わりだった祖母は優しく、おとなしくて素直だったいとこは弟のようだった。悲しかった」

時がたつにつれて空襲を知る人たちは亡くなり、空襲の歴史は地域で風化しつつあった。昨年、平和や地域の歴史を学ぶ花園小の6年生の依頼を受け、空襲の体験を語った。

戦後80年に誓う。「罪のない家族を失い、空襲の後には自宅の再建や畑の復旧に苦労した。戦争はもうこりごり。自分が知っているかぎりのことは、これからも語り続けたい」。再び戦争を起こさないために、自身の経験が役立つと信じて。（東誉晃）

地元の「戦争」たどる　花園小児童

熊本市西区花園の柿原地区であった空襲。津下環さん(89)の証言を聞き取った花園小6年の児童70人は昨年12月、校内であった平和学習の発表会で地域住民や保護者らに伝えた。参加者の多くは、熊本県内で初めてとされる空襲が地元であったことを知らず、驚いた様子だった。

児童たちは昨春から昨夏にかけ、戦争と自分たちのつながりを考える学習に臨んだ。地域の戦争をインターネットで調べていたところ、柿原地区に爆弾が落ちていたことを知った。複数の書籍にも記録が残っていることを確認した。

住民から具体的な被害の証言を得ようと、児童らは事情に詳しい人を探した。地元で食料品店を営む小山清孝さん(78)と知り合いだった林田彩生さんが津下さんを紹介してもらった。

林田さんら児童3人が津下さんの自宅を訪ね、爆弾が落ちた場所や亡くした家族、米俵の下に隠れて助かった状況を聞いた。6年生全員で再訪した際は事前に質問を用意し、書籍だけでは分からない詳細な証言を得た。

最初に津下さんから話を聞いた秋山凛さんは「米俵の下に隠れて助かった話にびっくりした。何も関係がない人たちの家に爆弾が落とされた。戦争は絶対にだめだと思った」と語った。（東誉晃）

津下環さんから聞き取った空襲体験を発表する花園小6年生の児童ら＝2024年12月、熊本市西区

ズーム

柿原空襲　「日本の空襲」（八一八　九州）（三省堂）や「熊本県の百年」（山川出版社）によると、柿原地区に米軍のB29爆撃機が中国から飛来したのは1944年11月21日。爆弾十数発を投下し、死者2人、家屋の全壊4戸、半壊3戸の被害があったとの記録が残る。

連　絡　先
平和憲法を活かす熊本県民の会　代表幹事　　髙谷　和生
□自宅／　〒８６５－００６１　熊本県玉名市立願寺１２６－５
□個人携帯　　０９０－１５１３－５５２８
□Ｅメール　　takayanagi912@yahoo.co.jp